

説教要旨



小学校高学年の時、町の道場で柔道を習っていました。その時の先生が私達に「帯の乱れは心の乱れ！！」とよく言っていました。その先生は柔道8段でどんな相手でも足払い一つで一本を取るような名人級の人でした。しかし、その先生が重んじていたことは屈強な人間になる事ではなく、礼を失すことなく常に平常心でいる事でした。このことはすべての道に通じている事ではないでしょうか？

聖書に書かれているルツという女性はその心を重んじた人でした。状況や条件では変わらない真心（まごころ）を姑のナオミに示しました。夫と息子に先立たれ失意の中にいるナオミを生涯愛し通したのです。その彼女のぶれない決心は聖書の神をいつも信じていたことに秘訣があります。

私達人間の愛は状況によって変わり、条件が付いてしまいます。つまるところ見返りを求めてしまうのです。与えるよりも求めてしまいがちです。まごころを与える事が出来なければ、求めても十分にもらえない。そんな世の中に疲れ、失望していきます。私たちの心は乱れていくものなのです。

しかし、聖書にはこのように書かれてあります。そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。「コロサイ 3:14」私達に愛が無くても愛を身に着ける事が出来ると聖書は言っています。この愛とはキリストの愛です。キリストは十字架上で無償の愛を私達に示して下さいました。この方の愛を受ける時、私達の内に真実の愛がこみ上げてくるのです。キリストの愛を信じる時、ルツのように真実の愛を人々に示すことが出来るようになります。